



川原一浩 KAWAHARA Kazuhiro
鉄構部・溶接の匠

18歳の時に溶接の世界に入り、かれこれ36年。おかげさまで、富山県が認定する富山の名匠「溶接の匠」にも選ばれました。僕たちが溶接する鉄構造物は、ときに高さが100m以上にもなります。県内だけでなく日本全国の建築物に使われていること、自分がつくったものが建ち上がる嬉しさは、経験した人にしかわからないもの。鉄構造物は同じような製品に見えるので、流れ作業で作っていると思われるかもしれませんが、実は全てちょっとずつ違うんです。形や求められる強度に応じて、溶接の仕方も変わります。溶接は、やればやるほど技術に深みが増す仕事。同じ条件の中でやっても職人ごとに完成が全く違う。それだけ差が出る仕事だからこそ、やりがいを感じられるんです。

溶接はやればやるほど
技術に深みが増す

ベテランから学ぶことが
たくさんあります！

金村 楓 KANAMURA Kaede
建築部(施工管理)

高校生の時、よく中越鉄工の前を通っていた私。「大きな会社だなあ」というのが第一印象でした。採用面接では、うまく話せずに泣いてしまったけれど、入社したい!という想いを丁寧に汲み取ってもらい、無事入社。今となっては笑い話です。1年のうち半年は工事現場で仕事しています。何もなかった更地に、建物ができていく過程を初めて見たときは感動しました。まだまだ



専門知識は足りませんが、人生の大先輩である現場の職人さんたちに、わからないところを教えてもらう毎日です。現場での仕事も、オフィスでの業務も楽しいですよ。今の目標は「2級施工管理技士」の資格を取ることですね。



日本全国 飛び回っています



阪本哲也 SAKAMOTO Tetsuya 鉄構部・工事

うちの職人たちが作った鉄構造物を責任を持って現場へ運び、組立を見届けるのが私の仕事です。月に3件ほどの案件を担当し、現場とのやりとりやスケジューリングを行っています。社外の方々とのやりとりが多いので、人との繋がりがどんどん広がっていくのも嬉しいですね。「お、久しぶり!」なんていう再会もよくありますよ。

うちの会社の鉄鋼造物は日本全国の工事現場で使われているので、あちこち出張で飛びまわれるのも仕事を担当する僕の特権です。これまでの仕事の中で一番印象深いのは、JR高岡駅の施工。ビルや商業施設の建設とは違い、終電が終わってから分刻みの仕事をしました。前を通るたびに、そのときのことを思い出します。



辻内真 TSUJUCHI Makoto
土木部(施工管理)

自分が死んでも、
残る仕事です

橋の架け替えや新設工事を行うのが僕の仕事。見積もり作成や設計図の照査、実測や図面作成、現場の建上げまで全て行なっています。入社してから専門用語を覚え、図面の読み方書き方を身につけ、必要な資格取得をしてきました。先輩社員や上司ともフランクに接することができる社風だからこそ、ゼロからの出発でも臆することなく仕事に取り組んでこられたのだと

思います。現在、部下2人と一緒に橋梁の仕事していますが、それぞれが自分の仕事に責任を持って取り組んでくれるのでできるだけ「任せろ」ことを意識しています。頼もしい部下たちですよ。橋は、何十年にもわたって残り続けます。もしかすると、自分が死んだあとにも残っているかも。一生誇れる仕事だと思っています。

上には、上がいる

正直、入社当時は鉄構に興味はありませんでした。しかし、仕事を覚え、製品が出来上がっていく過程をみたり、同期と溶接技術を競い合っていく中で溶接の面白さにどんどんハマっていきました。今は自分にも部下ができたので、良いところを伸ばしながら溶接の面白さに気づいてもらえるような指導を心がけています。3年前、富山県の溶接技術競技会個人の部で優勝し、初めて全国大会に出場しました。全国のレベルを間近に見て、上には上がいることを痛感しましたね。資格取得は会社が全面

山田達成 YAMADA Tatsunari
鉄構部・製造課



サポートしてくれます。費用面の支援だけでなく、先輩方から溶接技術の指導を直接受けられるのが中越鉄工の良さです。

